



佐高

スーパー グローバル ハイスクール

SGH通信 2019

No. 33 (2019年12月13日発行)

佐高 SGH インスパイア ファイル

足利市姉妹都市交流

11月15日から22日まで、高校1年中島 碧さん、中学3年加藤 瞳さんが、第17次青少年英語スピーチコンテスト優秀者訪米団として足利市の姉妹都市であるアメリカの、イリノイ州の州都のスプリングフィールド市を訪問しました。現地では、ホームステイや学校生活体験、またリンカーン大統領が演説を行った旧州議事堂でゲティスバーグスピーチを行いました。以下、2名による報告です。

イリノイ州スプリングフィールド市とは

イリノイ州の州都であるスプリングフィールド市は、足利市の姉妹都市であり、エイブラハム・リンカーンが第16代大統領に選出されるまでの17年間を過ごした街として有名です。また、アメリカのマザーロードである国道66号、通称ルート66が通っています。

リンカーンの家国立史跡・リンカーン博物館見学

リンカーン大統領とその家族が実際に住んでいた住居とその周辺の家を見学しました。復元もありましたが当時の物も多く展示されていました。背が高いリンカーン大統領専用の椅子やベッドがあり、どこか遠い存在だったリンカーン大統領を身近に感じることができました。また、博物館ではリンカーン大統領の生涯を精巧な人形や建物の展示や映像で詳しく学びました。リンカーン大統領の風刺画なども大量に展示されていて、彼が素晴らしい人格の持ち主であったことと、たくさんの非難やプレッシャーに苦しんだことを知ることができました。

ゲティスバーグ演説

旧イリノイ州議事堂は、リンカーンが大統領になるまで政治活動を行っていた場所です。ここでは有名な「別れたる家」の演説が行われました。大統領選の出馬表明をした場所としても有名です。復元ですが、重厚な造りと漂う威厳に圧倒されました。壇上の後ろにはリンカーン大統領の絵が飾られていて、とても緊張しました。練習の成果もあり、訪米団の五人全員がミスなく、今までで一番良いスピーチを行うことができました。議場いっぱいにお客がいて、テレビカメラも撮影に来ていました。また、スプリングフィールド市長をはじめとして、重役の方がたくさん来ていて、いかにこの行事が大切にされているかを感じました。



現地の新聞に載りました

ホームステイ

アメリカにいる間は、ほとんどの時間をホストファミリーと過ごしました。同年代なのに体格の良いホストシスターと一緒にシングルベッドで寝たことは八日間の中で1、2を争う衝撃体験でした。自由行動の日に訪れた書店には日本の漫画専用の棚が何列もあったり、学校でたくさんの人が日本語の曲を聴いたり、私の想像以上に日本の文化が他の国にも受け入れられ、浸透していることに驚きました。

感想

私はこの訪米で「世界は広い」ということを実感しました。世界には様々な種類の人っていて、それぞれ異なった文化や考え方があるということを日常のふとした瞬間に感じ、強く感銘を受けました。国際的に活動していくためには当たり前前の認識ですが、私は日本にいたままだったら気付くことができませんでした。また、自分の英語がいかにレベルの低いものかを痛感しました。たくさんの人と交流できるせっかくの機会なのに、相手の言っていることが分からず、自分の話も通じないことはとても悔しかったです。何日か過ごすうちに会話が続くようにはなりましたが、アメリカでやろうと思っていたことをほとんどできず、悔いの残る訪米となりました。今後の当面の目標として、英語を重点的に勉強しようと思います。

高校1年1組 中島 碧

アメリカでの日々は刺激的で毎日が驚きの連続でした。その中でも現地高校一日体験がとても楽しかったです。私が行った高校は8時スタートで多くの生徒が車やバイクで登校。私も同い年のホストファミリーの運転する車で登校しました。そして学校がとにかく広い！！生徒はもちろん私服、髪も染めている子が多く、化粧もして大人っぽく見えました。授業では先生の質問に対して意見が飛び交い多くの生徒が手を挙げて発表していました。お菓子を食ったり飲み物を飲みながら授業を受けていましたが、授業に関係ない話をする人、寝ている人は一人もいませんでした。これは私たちが見習わなければならないことだと思いました。

このアメリカでの経験は私を一回りも二回りも成長させてくれました。海の向こうでこんなに素敵な世界が広がっていることを知れて、本当に行ってよかったです。海外に行くことは「世界は広い」ということを教えてくれます。みなさんもぜひ海外に行ってみてください。

中学3年3組 加藤 瞳



ゲティスバーグ演説を行った壇上



シカゴ・摩天楼をバックに